

公同礼拝

2022年8月14日(日) 午前10時30分

午後3時

司式 牧師 姜匠米

前 奏

招 詞 詩 編 102編2、3節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

イザヤ書 52章7～10節 (旧1148)

マタイによる福音書 10章1～15節(新17)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 161 (1)

説 教 「平和を告げるもの」

牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 298 (1)

献 金

頌 栄 539

祝 禱

黙 禱

8月の祈り

戦争の狂気と悲惨を忘れることなく、主のみ心を求め、平和の実現求め祈り、歩むことができるように。

指導者たちが平和こそ人の道であることに目を向けることができるように。

平和を求めるそれぞれの祈りが力づけられるように。

今日の祈り

敗戦の日を覚え、戦争の背後にある人間の罪と傲慢をわきまえ、過ちを繰り返す事のないように。

戦争によって繰り返される生命と人間性と社会の破壊が一刻も早く止むように。

主の平和への御心に支えられて、真に平和を求める努力を続けることができるように。

世界の戦争と紛争によって、傷ついている人々が守られ、回復されるように。

「平和を告げるもの」 高橋和人

マタイによる福音書 10:1～15

主イエスは弟子たちを遣わされた。十二人の使徒と呼ばれるようになる弟子たちは、多様であった。主によって選ばれ、声を掛けられたことだけが共通だ。使徒たちの信仰が教会の信仰の源流となった。

十二使徒は、主に命じられてその権能を授けられた。権能は主のなされたことをなぞるもの。弟子たちは、身近なところに遣わされる。伝道は身近なところから始まる。

そこで「天国は近づいた」という福音の宣言がなされることが基本である。知恵や方策や配慮はこの基本に従うものでなければならない。天国の宣言によって、権能が現わされる。

伝道は手ぶらで行われる。持ち物や道具が伝道を進ませるわけではない。むしろ、自分に与えられた恵みを明らかにすることによる。

救いの恵みはただで与えられた。置かれた状況にも、生まれにも、能力にも、功績にもよらない。人はただで恵みを受けたのだ。恵みはその人を変えその人を動かす。

そこには回復がある。主の権能は汚れた霊を追いつ出し、あらゆる病気、わずらいをいやす。それらは人心を支配する時代の霊、身体と精神を蝕む病、生きることへの抑圧と負担。天の国はその支配を終わらせる。

主は特別な使命を与える。ふさわしい人をたずねだして、平安をとどませる。平安は平和と同じ語「シャローム」の訳である。それは人々の願いと祈りであり、この地では日々の挨拶である。

平和の実現は日々試練を受けている。そして今は平和は危機を迎え、崩されている。平和は人の知恵に寄らない。人の知恵は力づくで平和を得ようとする。力や武器による平和は矛盾し、確かなものとはならない。

主イエスの平和は願うところに与えられる。平和は力によってではなく、祈り求め続けることにある。そして、その人が祈るものに変えられなければ、平和はとどまらない。迎え入れず、言葉を聞こうとしない者には厳しい裁きが待つという。裁きは神の量りで量られること。赦されねばならないことを知ることである。

平和へのふさわしさは、神を知り、平和を祈り裁きを知ることによる。御言葉を聞き、神の与える平和の力強さを信頼し、日々平和を希求するところにある。